

# 力まず楽々オープナー

本紙声欄の相次ぐ投稿へ：「お役に立てるかも」

## 大府の福祉施設など開発

朝日新聞の声欄に6月と7月、老化や病気で握力が弱くなった人たちから、ペットボトルなどのふたを開けやすくしてほしいとメーカーに改善を求める投稿が相次いだ。「少しはお役に立てるかもかもしれません」と、連絡をくれたのは大府市の障害者福祉施設。それほど力をいれなくても飲料用のペットボトルや缶のふたを開けられる商品を開発していた。

大府市の社会福祉法人「仁至(にじん)会」が運営する「サンサン大(だい)」の施設長、塚本鋭裕(とがもと ずとよ)さん(65)が、商品を見せてくれた。青色半透明で、長さ約12センチ。虫眼鏡のような形で、握り部分の厚さは約0.5センチ。直径が約3センチの穴はペットボトルの、約1.5センチの穴はゼリー飲料の、先にある笛のような穴は飲料缶の、ふたを開けるときに使う。軽量で握りやすく、1個150円(税込み)。

サンサン大府は、市内のプラスチック製機械部品製造「タツミ化成」から出荷前の袋詰めな



↑開発された「ペットボトルオープナー」。大小の穴は、ペットボトル、ゼリー飲料のふた用。右端の笛のような部分は飲料缶のふた用  
↓「サンサン大府」施設長の塚本鋭裕さん(大府市半月町3丁目)

## 老化や病気の自助具 ふだん使いも

どを請け負っているが、同社から4年前、市を通じて「製造過程で廃棄しているプラスチック片を何かに役立てられないか」と相談があった。

「自助具」と呼ばれる、身体機能が衰えても日常生活を送れるよう工夫された道具をつくる市内のポランティアグループ「一二三」との三者で、日ごろ困っている人が多い「ペットボ



小さな穴をゼリー飲料のふたにかぶせて回す。それほど力がなくても開けられる



缶のふたに差し込み、上方向に持ち上げることで楽に開けられる

トルオープナー」の開発に試行錯誤を重ねた。仁至会の介護老人保健施設の入所者からも意見をもらい、「使いやすい」と好評だったものを半年近くかけて商品化した。

良いときには年500〜600個が売れるという。独立行政法人福祉医療機構のサイト(ワムネット)に載せると、山形県からも注文が寄せられた。市内ではサンサン大府のほか、「JAあぐりタウンげんきの郷」すくすくヶ丘や「有松温泉 喜多の湯」で買える。市の敬老会では過去2年間に計1万5千個近くが配られた。

注文が100個以上のおときは送料込みで1個120円。ただ、ゼリー飲料のふたの大きさはメーカーによって様々で、開けられないものもあるという。

塚本さんは「高齢者や障害者に限らず、ふだん使いたいほしい。こうした自助具を使いながら、日常生活をきらめたいほしい」と話す。問い合わせはサンサン大府(0562・46・6260、土日祝日は休み)へ。

(嶋田圭一郎)